

令和3年5月吉日

令和2年度事業報告書

一般社団法人 日本左官会議

[1] 概況

令和2年4月7日、新型コロナウイルス感染症への対応策として、東京など7都道府県に緊急事態宣言が発出され、4月16日には全国に拡大した。さらに8月と11月には感染が再拡大した。このため、当年度は人が集まるセミナー、シンポジウム、勉強会、見学会は開催ができなかった。

今年度は、新たな正会員6名の加入を承認。また、初めての試みとして、会員を対象にオンライントークを行った。これは今後も継続して開催でき、左官の魅力を広く一般に広げていくのにも有効だとの実感が得られた。

[2] 事業期間

令和2年 3月 1日～令和 3年 2月29日

[3] 事業の内容

【オンライントーク】

下記の要領で、会員を対象にオンライントークを行った。

第1回「土地の素材を使った「物語」のある左官の壁」

7月15日(水) 19:30～21:00 zoomにて

原田進（左官・副議長）× 都倉達弥（左官・正会員）

もともと日田で原田さんに弟子入りしていた都倉さん、材料のつくり方についてはしっかり学んだ。その後、東京に戻ってからの都倉さんの仕事を拝見しつつ、原田×都倉の師弟トークが展開した。また原田さんは、安全な藁スサを手に入れるための米づくり、海藻をどう手にいれるか、土の寝かせかたなど本格的な材料づくりについて話し、自らの作品についても解説。

第2回「左官を中心に語る 復活した宮城県気仙沼の文化財」

7月18日(土) 19:30～21:00 zoomにて

和田裕子（まちづくりコンサルタント・気仙沼風待ち復興検討会）×小林隆男（左官・副議長）×及川貴史（左官・正会員・気仙沼の修復を担当）

宮城県気仙沼は、2011年の東日本大震災で大きな被害を受けた。歴史的な建物の多くも大きく破壊され、再生は無理ではないかという声も上がるなか、多くの方々の熱意と尽力により、登録文化財群の復旧、再建が始められ、令和2年夏には一区切りとなる男山本店店舗が完成した。町並み全体の復旧がどのようになされていったかを、左官技術を中心に語ってもらった。

【そのほか情報発信】

・新正会員の紹介、土や左官に関するイベントの案内、テレビ番組の紹介などの情報発信を、サイトや facebook、メールニュースを通じて随時行った。

・8月、下記の連続講座に対して、協力団体として参加者募集に協力した。

日本民家再生協会主催のオンライン連続講座(全6回)

「日本の住まいの成り立ち ～東アジアの森と民家造～」

講師：安藤邦廣（里山建築研究所主宰・筑波大学名誉教授）

[4] 定時社員総会

令和3年5月22日午後8時から、ビデオ会議（Zoom）において、定時社員総会を開催した。

出席社員数(委任状による者を含む) 21名

第1号議案 正会員6名承認

及川貴史、都倉達弥、秦 竜一、原田正志、平石智久、渡辺 真 計6名

第3号議案 理事選任

理事 挾土秀平

理事 小林隆男

理事 原田進

理事 多田君枝

理事 宇野勇治

理事 川口正樹

理事 小沼充

理事 今野等

理事 豊永郁代

理事 西川和也

理事 松木憲司

理事 長田幸司

すべて非常勤

第3号議案 平成31年度貸借対照表、正味財産増減計算書、及び財産目録の承認

[5] 会員の状況

新規入会数は、正会員6名（うち3名は準会員から変更）、準会員1名、支援会員2名。

当期末の会員数は以下の通り。

名誉会員 2名 顧問会員 9名 正会員24名 準会員24名 支援会員47名

賛助会員9団体 計115名・団体（令和3年2月28日現在）

[6] 正味財産の状況

経常収益として、受取会費は1,450千円と前期比250千円増加した。経常外収益として、持続化給付金1,805千円を受給した。

費用については、1,444千円と前期比592千円減少した。

正味財産増減は1,812千円と前期比1,942千円増加し、期末の残高は2,546千円である。

以上